

静岡県道路メンテナンス会議

設立趣意書

静岡県の道路インフラ（道路管理者が管理する静岡県内の橋梁は、合計約2万9千橋、トンネルは約440本）は、昭和30年代前半からの高度経済成長期に集中的に整備され、急速に老朽化が進むことが確実である。今後、これらの補修や更新を行う必要が急激に高まってくることが見込まれており、厳しい財政状況にある中、これら老朽化した道路インフラの補修や更新を、いかに適確に対応していくかが重要な課題となっている。

また、橋梁では直轄国道管理分（約9百橋）、静岡県管理分（約3千橋）や静岡市・浜松市管理分（約9千橋）、高速道路分（約7百橋）等はもとより、大部分を占める市町管理分（約1万6千橋）も含めて、その実態を把握したうえで、長寿命化も図りつつ見通しを立てた計画的な補修・更新を行っていくことが必要となっている。

そのためには、国道、高速道路、有料道路、県道、市町道等の、すべての道路管理者等が情報を共有し、連携して対応していくことが必要不可欠である。

本会議は、静岡県内における道路インフラの維持管理・補修・更新等を効果的・効率的に行うため、交通上密接な関連を有する道路管理者等が相互に意見調整・情報共有を行い、道路インフラの点検結果や修繕計画等について協力することにより、円滑な道路管理を促進し、道路インフラの予防保全・老朽化対策の体制強化を図ることを目的として設置するものである。

平成26年6月4日